



2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社トライアイズ

コード番号 4840 URL <https://www.triis.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 有希子

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 上嶋 悦男 TEL 03-3221-0211

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切り捨て)

1. 2021年12月期第3四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	839	30.0	△105	-	△172	-	△203	-
2020年12月期第3四半期	645	△53.1	26	△87.1	△15	-	△30	-

(注) 包括利益 2021年12月期第3四半期 △75百万円 (-%) 2020年12月期第3四半期 △134百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	△27.43	-
2020年12月期第3四半期	△4.17	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第3四半期	6,319	4,077	61.5	525.05
2020年12月期	6,501	4,230	62.3	547.30

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 3,892百万円 2020年12月期 4,053百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	-	0.00	-	12.00	12.00
2021年12月期	-	0.00	-		
2021年12月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,012	0.7	△127	-	△193	-	△277	-	△37.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 (社名) 除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期3Q	8,300,000株	2020年12月期	8,300,000株
② 期末自己株式数	2021年12月期3Q	886,513株	2020年12月期	894,193株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期3Q	7,405,647株	2020年12月期3Q	7,396,443株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響が継続して景気が悪化している状況にあります。数度に渡って緊急事態宣言が発令され、外出、イベント・セレモニーの自粛、渡航制限、休業要請が継続していることに伴い個人消費も低迷しています。また、現在ワクチン接種は進んでいるものの、不透明かつ厳しい経営環境が継続している状況です。

このような経済環境のなか、トライアイズグループは、景気変動の影響を受けない企業グループとして、小さくとも知性を使って、その世界ではNo. 1となり光る企業グループを目指すという方針のもと、「イノベーションによるコスト優位の確立」を最重要目標とし、売上が減少しても黒字化できる体質づくりを続けており、営業利益、経常利益及び最終利益の黒字化（いずれも連結ベース）を目指しています。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、建設コンサルタント事業において新型コロナウイルス感染症拡大の影響により工期延長した案件を確実に取り込めたほか、ファッションブランド事業において売上が堅調に推移したことを受け、839百万円（前年同期比30.0%増）と前年同期より著しく増加する結果となりました。しかし、建設コンサルタント事業の完成案件が工期延長の影響を受け採算性が悪化したこと、ファッションブランド事業における工場稼働低下に伴う原価率上昇及び投資事業における物件修繕費用や固定費の増加を受け、各事業における原価率は前年同期を上回る結果となりました。そして、販売費及び一般管理費は344百万円（前年同期比1.1%増）と前年同期とほぼ水準で推移しました。この結果、営業損失は105百万円（前年同期は26百万円の営業利益）と損失に転じました。

営業外収益については、受取保険金5百万円、外貨預金に係る為替差益4百万円等を計上した結果、20百万円となりました。営業外費用は、借入金に係る利息63百万円を計上したほか、投資事業において発生した延滞債権について貸倒引当金を保守的に21百万円設定した結果、87百万円となりました。この結果、172百万円の経常損失（前年同期は15百万円の経常損失）となりました。また、保有遊休不動産に係る減損損失を2百万円計上した結果、税金等調整前四半期純損益は173百万円の純損失（前年同期は19百万円の税金等調整前四半期純利益）となりました。

そして、法人税等29百万円の計上により最終的には203百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失（前年同期は30百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は以下のとおりです。

(建設コンサルタント事業)

建設コンサルタント事業においては、従来型ダム関連業務、河川防災・減災対策業務及び海岸保全業務を中心に受注しました。引続き、発注比率が高まっている防災・減災対策関連業務やダム、河川構造物、海岸・港湾分野の維持管理を中心とした継続性の高い業務の受注シェア拡大と受注に対応する人員体制の整備等生産性を向上させる施策の実行により、収益の改善を図ります。

当第3四半期連結累計期間は、受注高が当初の想定どおり推移したほか、前連結会計年度において新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け工期が延長となった大型案件を取り込めたため、売上高は539百万円（前年同期比73.7%増）と前年同期と比較して大幅に上回る結果となりました。しかし、完成案件の長期化に伴い採算性が悪化し、原価率は前年同期を上回る結果となりました。販管費については継続して取り組んでいる固定費の削減の効果により前年同期を下回る結果となりました。この結果、第3四半期連結累計期間は13百万円の営業損失（前年同期は67百万円の営業損失）を計上する結果となりました。

(ファッションブランド事業)

ファッションブランド事業においては、個人消費の低迷により厳しい経営環境が続いています。係る環境の下、ブランドCLATHASについてはロイヤルティビジネスによる安定的な収益を確保し、新たな顧客の獲得のため、新しい販路の開拓を継続し、国内外を問わずライセンス事業の強化を図ってまいります。

濱野皮革工芸(株)については、軽井沢工場の所在地である長野県御代田町において、引き続きふるさと納税の返礼品として認定されているほか、テレビをはじめとした各種のメディアにおいて取り上げられております。今後も同社のブランド価値を向上させる施策に取り組み、購入を促進する魅力的なオンラインサイトの構築及び原価率の改善などの生産性の向上のための施策を継続してまいります。

当第3四半期連結累計期間は年初からの緊急事態宣言の発令による外出自粛及びセレモニーの中止の影響により主力製品の需要が激減した影響を受けたものの、売上高は182百万円（前年同期比0.7%減）と前年同期と比べほぼ水準の売上を確保することができました。しかし、前連結会計年度より売上減少に伴い軽井沢工場の生産調整を行い生産高が前年同期より減少したことに伴い、原価率は前年同期より増加する結果となりました。また、ECサイト売上向上のためネット広告への投資を積極的に行った結果、販売管理費は前年同期よりも増加しました。この結果、当第3四半期連結累計期間は112百万円の営業損失（前年同期は36百万円の営業損失）を計上する結果となりました。

(投資事業)

投資事業においては、引続き米国の子会社TRIIS INTERNATIONAL AMERICA INC.において、住居用物件と工業用・商業用物件の賃貸をしております。物件の稼働は堅調に推移しており、今後はより収益性の高い物件の取得及び入替を促進し、収益性の向上を図ってまいります。

当第3四半期連結累計期間は、収益物件が概ね堅調に稼働したものの、一部のテナントの賃料延滞が発生したことにより、売上高は118百万円（前年同期比22.3%減少）と前年同期を下回る結果となりました。また、物件の修繕・改良を続けて行ったことにより売上原価が増加した結果、営業利益は2百万円（前年同期比△98.1%増）と大幅に減少する結果となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は6,319百万円と前連結会計年度末に比べ182百万円減少、負債は2,241百万円と前連結会計年度末に比べ29百万円減少、純資産は4,077百万円と前連結会計年度末に比べ152百万円減少しました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,091百万円減少し、1,144百万円となりました。これは主に、投資事業における収益物件獲得により「現金及び預金」が816百万円減少したことに加え、建設コンサルタント事業における案件完成に伴い「仕掛品」が142百万円減少したほか、投資有価証券の売却により流動資産「その他」が102百万円減少したことによるものです。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ908百万円増加し、5,174百万円となりました。これは主に、投資事業における新規物件の購入及び換算為替相場の変動に伴い「建物及び構築物」及び「土地」それぞれ276百万円及び623百万円増加したことによるものです。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ90百万円減少し、247百万円となりました。これは主に、建設コンサルタント事業の「前受金」が110百万円減少したほか、賞与引当金の計上により「賞与引当金」が21百万円増加したことによるものです。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ60百万円増加し、1,994百万円となりました。これは主に、外貨建て「長期借入金」の換算為替相場の変動及び返済により60百万円増加したことによるものです。

(純資産)

第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ152百万円減少し、4,077百万円となりました。これは主に、利益配当に伴う利益剰余金88百万円の減少、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴う利益剰余金203百万円の減少、換算為替相場の変動による「為替換算調整勘定」127百万円の増加及び自己株式の処分に伴う「自己株式」3百万円の増加によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

弊社グループの主力事業である建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業において、①当第3四半期連結会計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、当初及び第2四半期時点の予測を超えるものであったこと及び②第2四半期連結会計期間時点では当連結会計年度内（2021年12月、以下同様）で収束すると見込んでいた新型コロナウイルス感染症拡大の影響が連結会計年度以降も継続し、現時点において当第3四半期連結会計期間以降も売上高が当初の予測（以下、「当初計画」と記載します。）まで回復しないことが見込まれます。

係る状況を踏まえ、当連結会計年度における建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業の売上高を試算した結果、両事業における売上高が現時点で2021年2月15日に公表した当初計画を大幅に下回る見込みとなったほか、当該売上高の減少により営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益いずれも当初計画を下回る見込みとなりました。それに伴い、2021年10月29日に修正後の業績予想を「業績予想の修正に関するお知らせ」として開示します。第3四半期決算短信に記載している「2021年12月期の連結業績予想」は、当該開示に基づき修正後の数値を記載しています。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,611,553	795,327
受取手形及び売掛金	53,940	70,240
商品及び製品	147,431	127,587
仕掛品	214,767	72,182
原材料及び貯蔵品	30,808	25,675
その他	177,329	74,908
貸倒引当金	—	△21,815
流動資産合計	2,235,831	1,144,107
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	1,514,277	1,791,210
土地	2,441,662	3,065,564
その他 (純額)	24,862	23,042
有形固定資産合計	3,980,802	4,879,817
無形固定資産		
ソフトウェア	3,861	1,949
その他	10,619	8,107
無形固定資産合計	14,480	10,057
投資その他の資産		
投資有価証券	76,946	80,543
繰延税金資産	21,734	21,734
その他	188,057	198,319
貸倒引当金	△15,935	△15,485
投資その他の資産合計	270,802	285,111
固定資産合計	4,266,086	5,174,986
資産合計	6,501,917	6,319,094

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,486	3,654
1年内返済予定の長期借入金	33,529	36,274
未払法人税等	32,363	34,776
賞与引当金	—	21,075
受注損失引当金	—	2,677
返品調整引当金	1,195	224
前受金	198,464	88,118
その他	48,123	60,272
流動負債合計	337,162	247,073
固定負債		
長期借入金	1,871,795	1,931,932
資産除去債務	22,831	22,834
その他	40,000	40,000
固定負債合計	1,934,626	1,994,766
負債合計	2,271,789	2,241,840
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000,000	5,000,000
資本剰余金	632,572	632,836
利益剰余金	△1,065,924	△1,357,939
自己株式	△362,293	△359,089
株主資本合計	4,204,354	3,915,806
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△151,162	△23,354
その他の包括利益累計額合計	△151,162	△23,354
新株予約権	176,935	184,801
純資産合計	4,230,127	4,077,253
負債純資産合計	6,501,917	6,319,094

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	645,461	839,210
売上原価	278,629	600,633
売上総利益	366,831	238,576
販売費及び一般管理費	340,261	344,081
営業利益又は営業損失(△)	26,570	△105,504
営業外収益		
受取利息	6,872	3,965
受取保険金	—	5,100
為替差益	—	4,730
未払配当金除斥益	3,832	3,905
補助金収入	5,604	—
債務勘定整理益	4,200	—
保険解約返戻金	1,035	—
その他	3,620	2,930
営業外収益合計	25,165	20,632
営業外費用		
支払利息	62,416	63,765
貸倒引当金繰入額	—	21,815
為替差損	790	—
その他	3,610	1,645
営業外費用合計	66,817	87,227
経常損失(△)	△15,080	△172,098
特別利益		
新株予約権戻入益	843	873
投資有価証券売却益	720	—
固定資産売却益	34,810	—
特別利益合計	36,373	873
特別損失		
減損損失	1,484	2,169
特別損失合計	1,484	2,169
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	19,808	△173,395
法人税等	50,632	29,750
四半期純損失(△)	△30,824	△203,145
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△30,824	△203,145

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△30,824	△203,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,006	—
為替換算調整勘定	△111,056	127,807
その他の包括利益合計	△104,050	127,807
四半期包括利益	△134,874	△75,337
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△134,874	△75,337
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	310,195	183,472	151,794	645,461	—	645,461
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	95	—	95	△95	—
計	310,195	183,567	151,794	645,557	△95	645,461
セグメント利益又は損失 (△)	△67,204	△36,480	110,764	7,079	19,490	26,570

- (注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額19,490千円には、セグメント間取引消去19,341千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額149千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で1,484千円計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	539,047	182,152	118,010	839,210	—	839,210
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	875	—	875	△875	—
計	539,047	183,027	118,010	840,085	△875	839,210
セグメント利益又は損失 (△)	△13,066	△112,760	2,001	△123,825	18,321	△105,504

- (注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額18,321千円には、セグメント間取引消去△58,339千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額76,660千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で2,169千円計上しております。